

運動会は楽しい？ (教育コラム)

コロナ禍も収まり、運動会や体育祭も以前のように開催されるようになりました。学校によっては元通りと言う訳では無く、コロナ禍の効用とでもいうのでしょうか、競技を少なくし効率良くお昼までで終わっているところも多いようです。お昼に終わるという事は、当然お弁当と一緒に食べる時間はなく、多くの家庭で運動会当日の早朝に繰り広げられている、大お弁当作りのような一種の風物詩は無くなっていった今日この頃だと思います。

さて、少々本題に話を戻して、皆さんは運動会は楽しみでしたか？当日は楽しかったですか？私は物事を穿った見方をする性格なので、多くの方が賛成あるいは当たり前と思っていることを、そのまま受け入れられる性格ではありません。運動会は楽しいものと決めつけず、ちょっと冷静に考えてみましょう。そして、それと同じように勉強は大変なもの、嫌いなものと決めつけず、運動と勉強について少し客観的に考えいきましょう。そうすることで、教育コラムとしての役割、子どもの学力向上はもちろん、大人になってからもとっても大切な勉強を再認識することに繋がればと思います。

ちなみに、『穿った』と言う言葉には実はマイナスなイメージは無く、正しくは「物事を深く掘り下げる・物事の本質をうまく的確に言い表す」と言ったどちらかと言うと、誉め言葉としてのイメージが本来の意味になります。穿った見方しか出来ない私のような人間の見方も変われば幸いです。

まず、運動と勉強の違いについて何点か見ていきたいと思います。

2023年12月12日現在、運動・スポーツで最も話題となっているのは、MLBの大谷翔平選手のロサンゼルスドジャースへの移籍です。契約金は10年間で1015億円。とんでもない金額ですよ〜。凄いつ、としか言いようがないです。それはそうと、運動・スポーツが出来る子は小さい頃から目立っていましたよね。一方、勉強が出来る子はそれ程目立つことはなかったように思います。むしろ目立つことを避けていたように感じます。もちろん性格の違いはあるのですが、何故か運動が出来ることは公に自慢してもそれ程角が立ちませんが、勉強はそうはいきません。最近ではあまり言われませんが、勉強が出来る子を「ガリ勉」なんて言ってからかったりするようなことは皆さんの周りでもあったかと思います。野球が出来る子に「ガリ野球」なんて言いませんし、「ガリサッカー」なんて言いませんし、運動が得意な子が「ガリスポーツ」なんて言われることを私は聞

いたことはありません。空手バカ一代のような漫画があり、野球バカとは言ったりするかもしれませんが、甲子園を目指して必死で努力をしている高校球児に言ったりはしないと思います。そう、それと同じで体育の授業での体力テストは目の前で結果が全員に分かってしまいます。年に1度の運動会では同級生だけではなく、その保護者にまで全ての結果が分かっ
てしまいます。私は比較的運動は好きでしたし、田舎の公立小・中・高では相対的に運動の成績は良い方でした。しかし、私の妻は超が3回ついてもお釣りが来そうな程運動は苦手で、50m 走は 13 秒、小学 6 年生まで自転車に乗れず、人生で一度も逆上がりはもちろん、腹筋や腕立て伏せも1回も出来たことはありません。スポーツテストの結果はランク外の級外と言う評価だったそうです。そんな彼女からすると体育の授業は苦痛でしたでしょうし、運動会は地域の皆に見られる大袈裟な表現かもしれませんが、まるで公開処刑のような時間だったと想像出来ます。事実、とっても恥ずかしかったと言っていました。そんな彼女の楽しみは運動会そのものではなく、唯一家族で一緒にお弁当を食べる時間だったようです。そのようなお子さんは他にもおられたと思います。

一方、彼女は勉強が好きで、今ではそれを仕事・学研教室の先生として日々、子どもたちに勉強を教えています。勉強も運動も、やればやった分

だけ力をつきます。ただ、そこには個性や性格や生まれ持った才能のようなものや、最近では環境が大きく注目されていますが、どちらの能力を伸ばしていく方が自分にとって向いているかを見極めることが大切だと個人的に思います。そういった意味で、一種の固定概念として、体育やスポーツ、運動会は楽しいもの、宿題やテスト、勉強は嫌いなもの、と決めつけられないことも大切だと思います。人それぞれの筈ですし、どちらも同じ熱量で賞賛される方が良いと私は思います。ちなみに、中学1年生の長女の学年通信には1500m走の男女上位5人の個人名とタイムが掲載されていました。もちろん、定期テストの成績上位者の個人名や点数は掲載されていません。定期テストの結果を保護者に配る学年通信に載せるのは、何とも言えない違和感を感じてしまう自分もいますが、何故1500mには感じないのか、不思議ですが世の中の常識のように感じている感覚に、運動と勉強に対するバイアスがかかっていることは何となく理解出来ます。

最後に、運動会は楽しい？は人それぞれ、勉強が楽しい？も、もちろん人それぞれ、ダイバーシティが叫ばれて久しいですが、運動会での校長先生の挨拶も、お決まりの「皆さんの思いが天に届いたかのような、晴天に恵まれて・・・」のような一方の立場しか考えていないものから、

さまざまと言うか、それぞれのと言うか、どちらにしろ一方的な考えを無意識に押し付けることのないような時代が来ることを私は祈っています。ちなみに、無意識については昨今『アンコンシャス・バイアス』と言うフレーズでビジネスの場でも頻繁に議論される話題の1つです。先程の運動会の挨拶では、保護者代表のPTA会長の挨拶も変わって欲しいですね。子どもに一番近い保護者と日々多くの時間を子どもと過ごす学校の先生の意識がフラットであることを望み、自分自身も未熟な親として日々努力していきたいと思います。最後の最後に、勉強は嫌なものとして植え付けないように、「勉強しなさい！」の代わりに「早くゲームしなさい！」や「もういい加減、勉強やめなさい！（勉強していなくても、取り敢えず言ってみる。）」など、試しに多用してみると家庭内での空気が少し変わると思いますので、一種の遊びだと思って言ってみるのも面白いと思います。

そして、次回のコラムでは運動と勉強の密接な関係を『涵養』をキーワードにしてお伝え出来ればと思います。2023年12月24日「メリークリスマス」、サンタ（山田）より。

ソニー生命保険(株) 大分支社
〒 870-0029 大分市高砂町 2-50
TEL 097-532-9200
ライフプランナー 山田新悟